

特集 1

対談

生殖医療の現状

— 保険適用拡大がもたらすもの —



おおすが ゆたか
大須賀 穰

東京大学大学院医学系研究科 産婦人科学 教授/
一般社団法人日本生殖医学会 理事長



てらだ ゆきひろ
寺田 幸弘

秋田大学大学院医学系研究科医学専攻 機能展開医学系
産婦人科学講座 教授

少子化が社会的な問題として注目される中、我が国で生まれる新生児の14人に1人は生殖補助医療によって生まれています。しかし、不妊治療にかかる経済的な負担は大きく、治療を諦めざるを得ないカップルもいます。

このような背景もあり、2022年の診療報酬改定で不妊治療の保険適用範囲が拡大され、「人工授精」「体外受精」「顕微授精」などが対象となりました。

今回は不妊治療の保険適用拡大の意義と今後の展望について、大須賀穰先生と寺田幸弘先生に対談していただきました。